議事（２）

令和８年熊本地震に係る被災状況と工事の進捗について

①国土交通省九州地方整備局

②農林水産省九州農政局

③熊本県　※市町村を含む

令和８年熊本地震に係る被災状況・工事進捗等について

令和８年１１月
九州地方整備局

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

【目　次】

1. 道 路

2. 河 川

3. 港 湾

4. 官庁施設

5. 参考資料（熊本地震の概要・初動体制、被災地・自治体支援、業界の支援）

1. 道　路

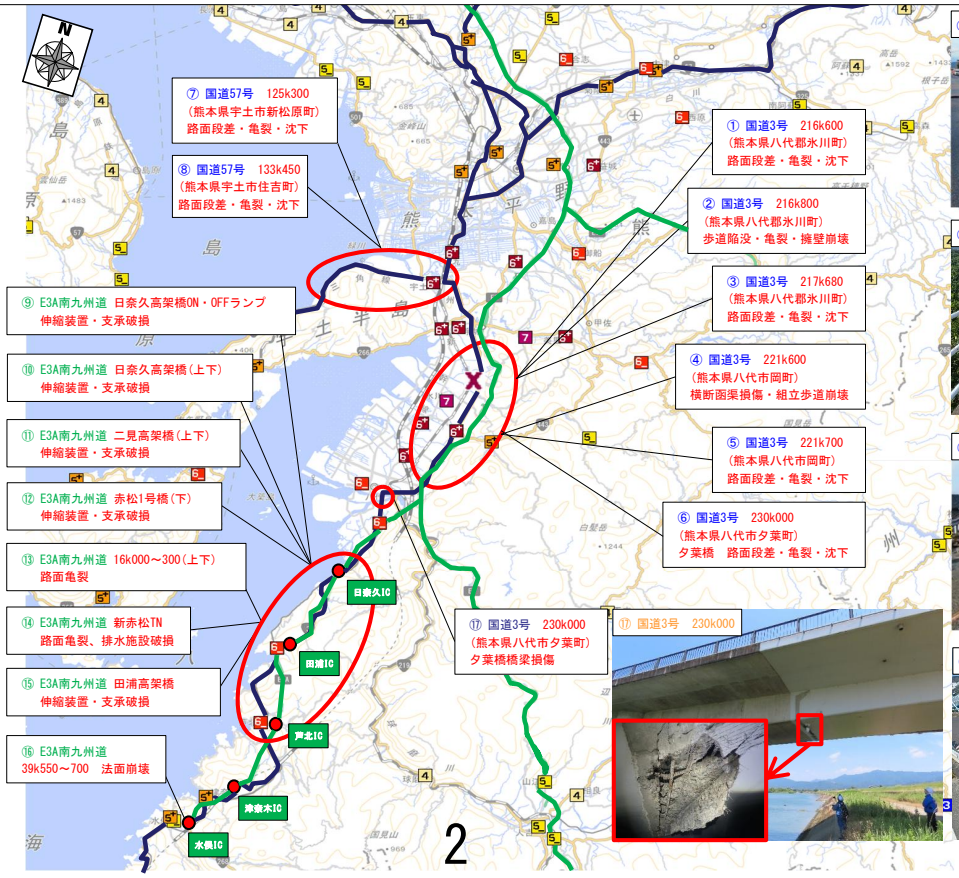
九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

被災状況・応急復旧等（道路）

【広域図】



〇令和８年熊本地震による被害は、震源に近い八代市・氷川町に集中している。
〇直轄国道の被災は、路面の段差・亀裂・沈下、橋梁部の伸縮装置・支承部・桁部に大きな被害。
被害総額約１６０億円（国道３号７件・国道５７号２件・E3A南九州道８件）

















被災状況・応急復旧等（道路）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

〇国道３号においては、７月２８日の熊本地震発生直後より通行止めが発生したが、災害協力業者及び、維持業者の緊急作業により、車両通行が可能となり７月２９日００時３０分には通行止めを解除。
〇８月４日より応急復旧として渋滞の解消・安全な通学路の確保を目的としたピンポイント路面改善作戦（第一弾～第三弾）を実施。
〇本復旧に向け、災害復旧工事を推進する。

【国道3号】













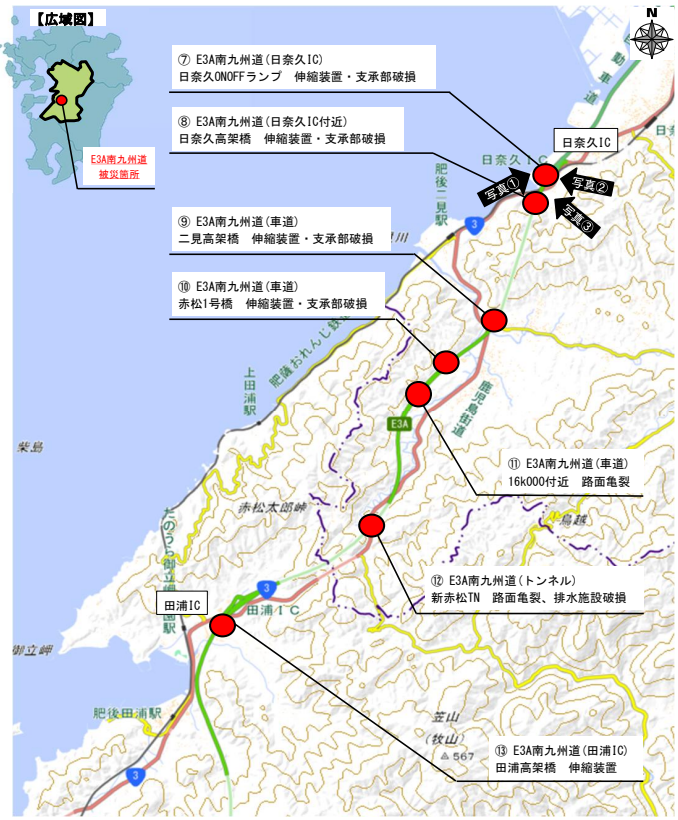




被災状況・応急復旧等（道路）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

〇南九州西回り自動車道(日奈久ＩＣ～水俣ＩＣ)においては、一般車両の安全確保と２次被害防止のため、緊急作業完了まで通行止めを実施。
〇田浦ＩＣ～水俣ＩＣ間は７月３０日、日奈久ＩＣ～田浦ＩＣ間は、８月１８日より一般車両の通行止めを解除。
〇本復旧に向け、災害復旧工事を推進する。



【南九州西回り自動車道】







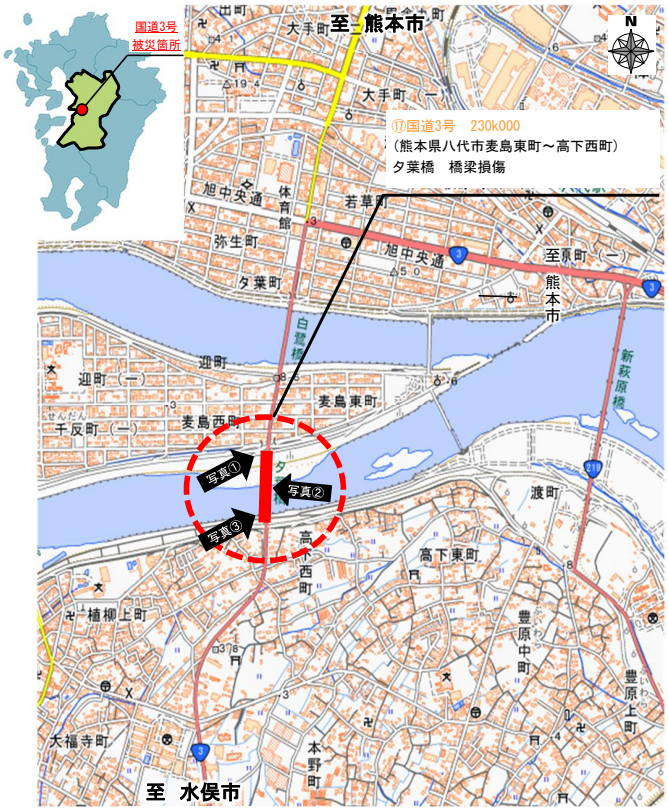






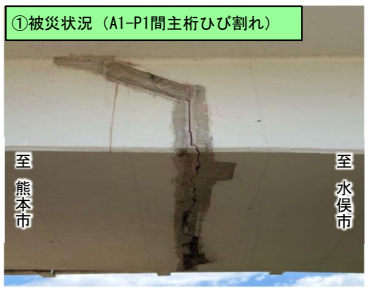
被災状況・応急復旧等（道路）

○国道3号夕葉橋については、緊急点検調査により橋梁に損傷が見られたため、架設ベント設置等の応急処置を実施。
○本復旧に向け、災害復旧工事を推進する。



国道3号夕葉橋

①被災状況（A1-P1間主桁ひび割れ）



①応急復旧（仮設ベント設置）



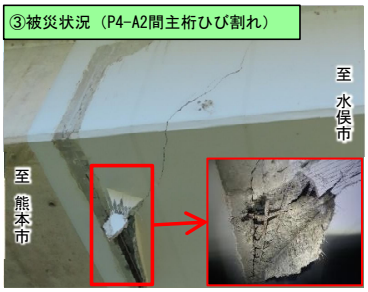
②被災状況（伸縮装置破損）



②応急復旧（段差補修）



③被災状況（P4-A2間主桁ひび割れ）



③応急復旧（仮設ベント設置）

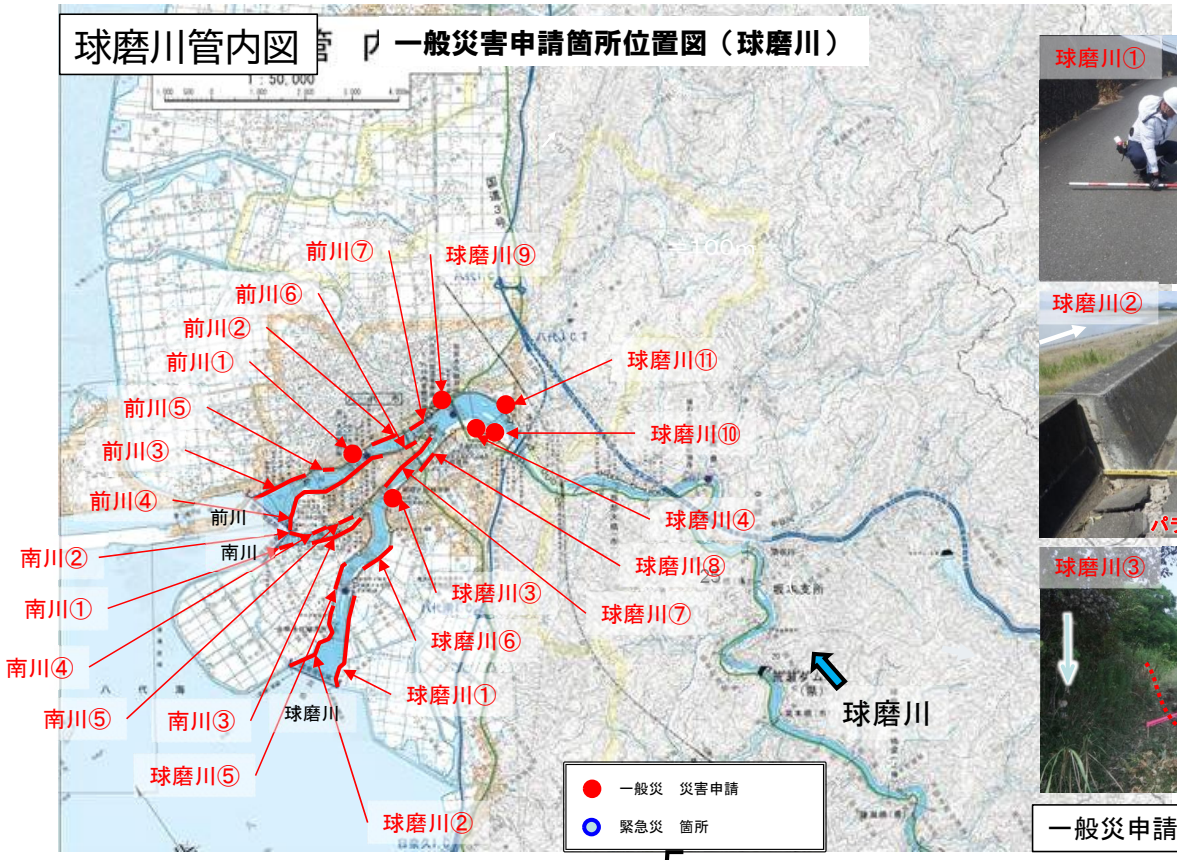


2. 河　川

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

被災状況・応急復旧等（河川）

○ 発災後、堤防等の緊急点検を実施し、球磨川では河川堤防等44箇所の変状を確認。このほか、広域地盤沈下を確認。
○ 災害復旧事業として23件採択。このうち3件は、緊急災。緊急災箇所の本復旧工法は、堤防調査委員会で検討中。







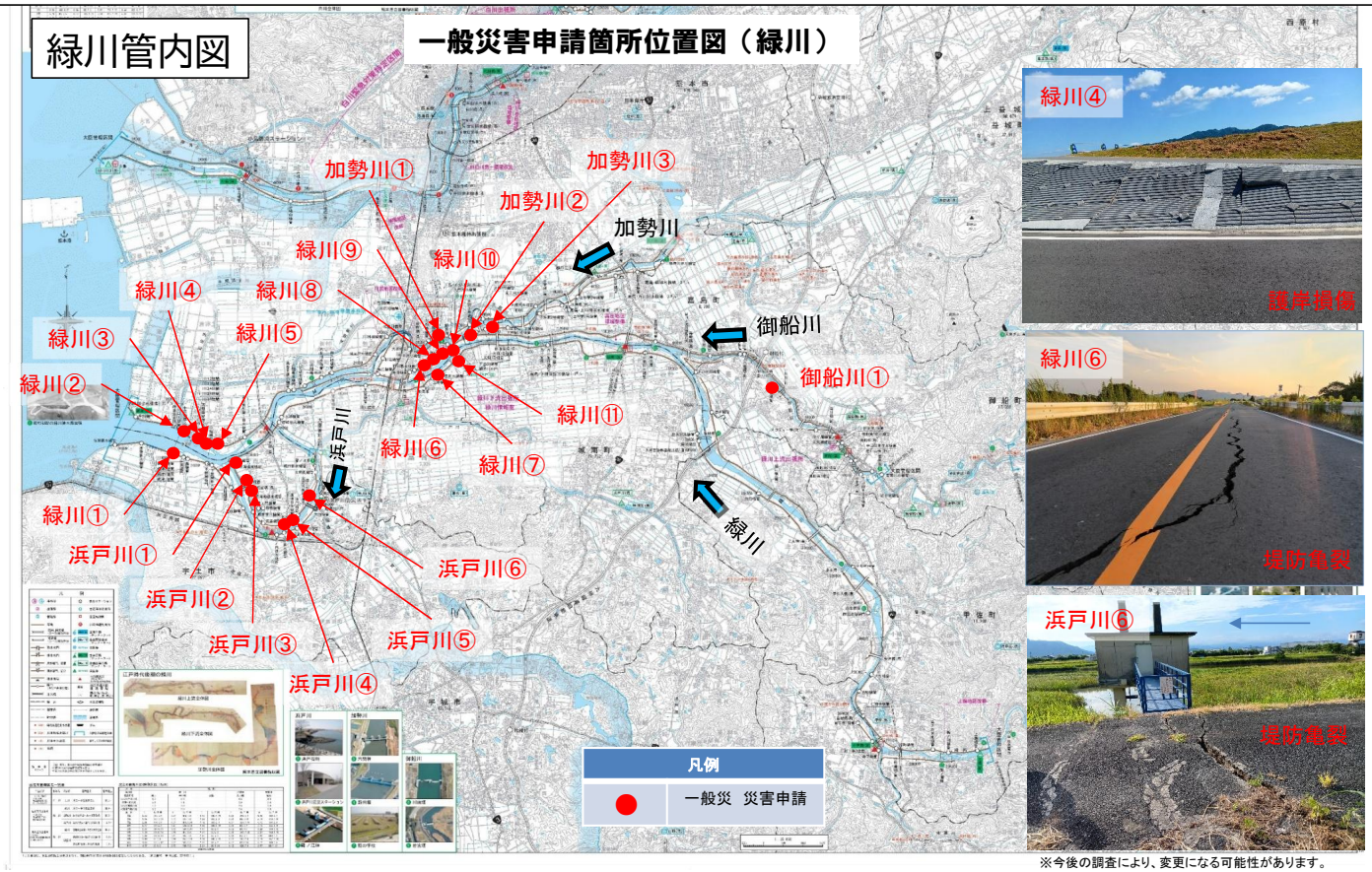


一般災申請箇所の被災状況

被災状況・応急復旧等（河川）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

○発災後、堤防等の緊急点検を実施し、緑川では河川堤防等44箇所の変状を確認。
○災害復旧事業として21件採択。



※今後の調査により、変更になる可能性があります。

緊急復旧を概ね１０日で達成

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

地震により比較的変状が大きかった３箇所について、24時間体制で緊急的な復旧工事を実施し、令和8年8月7日までに完了しました。

≪緊急復旧前≫7/28（球磨川右岸6k400）







≪緊急復旧後≫８/７（球磨川右岸6k400）



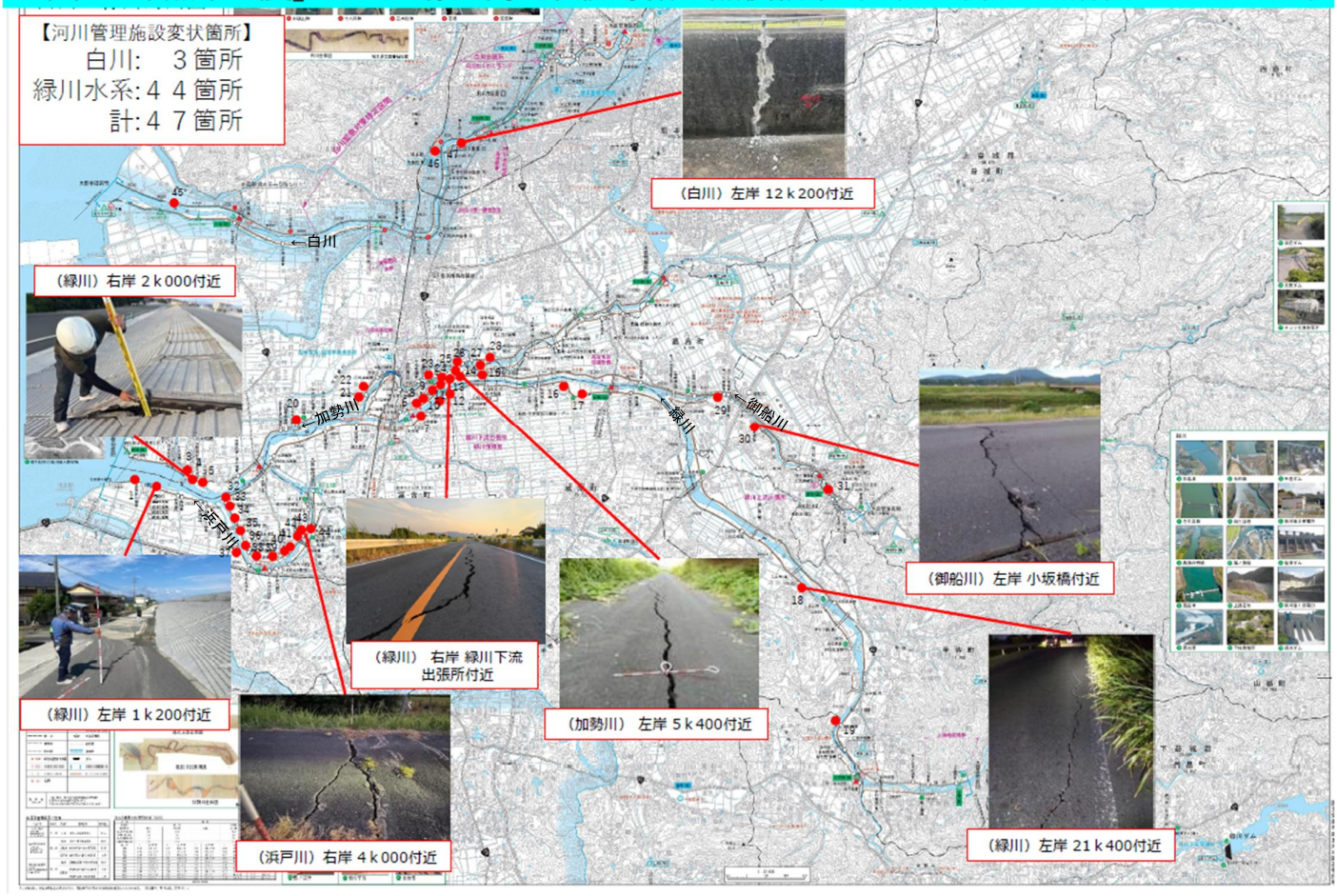


早期復旧のため24時間体制で施工

直轄河川堤防の変状箇所（白川・緑川）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

「令和８年熊本地震」白川・緑川河川堤防等緊急点検結果（熊本河川国道事務所管内　7月30日 時点）

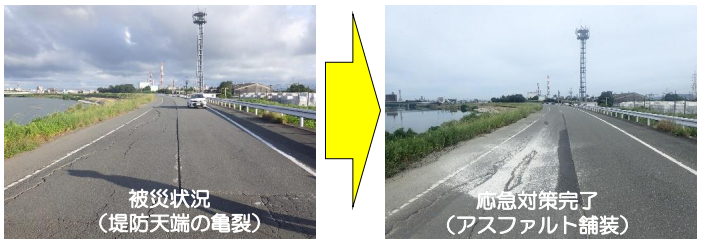


被災堤防の応急対策

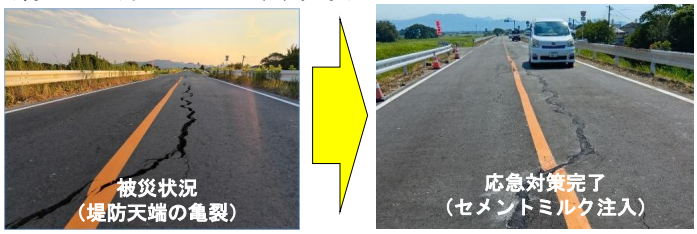
九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

球磨川水系及び白川水系、緑川水系の９１箇所の堤防等の被災のうち、比較的変状の小さな箇所については、ひび割れの補修などの応急対策を実施しました。

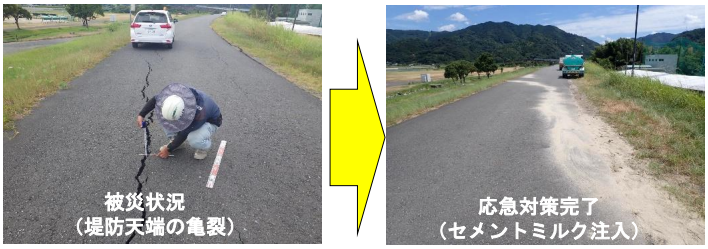
（球磨川　右岸7k200m：八代市）



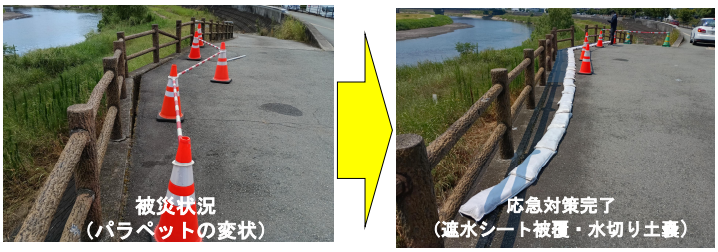
（緑川　右岸8k800m：熊本市）



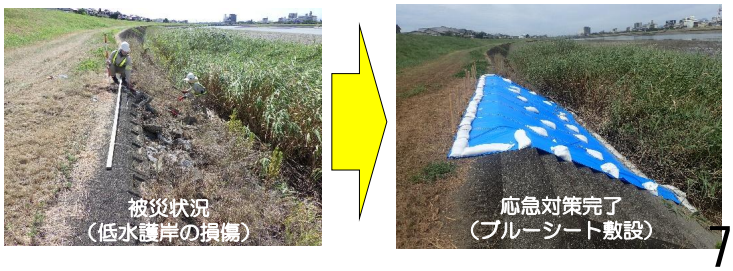
（球磨川　左岸6k800m：八代市）



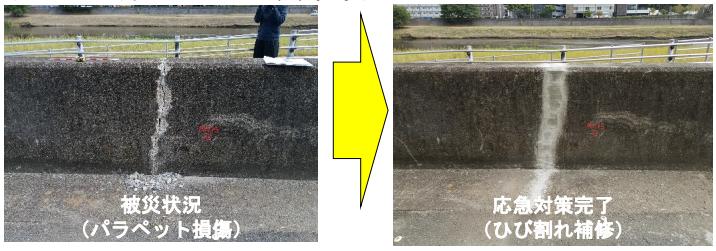
（白川　右岸10k800m：熊本市）



（前川　左岸4k300m：八代市）



（白川　左岸11k000m：熊本市）



3. 港　湾

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

被災状況・応急復旧等（港湾）－八代港外港地区－

○八代港外港地区の各施設において、岸壁直背後から控え工までの範囲を中心にクラック、段差等が発生。
○多くの施設において、岸壁直背後および控え工付近で液状化による噴砂が発生。
○C-1-18(非耐震部)において、比較的大きな陥没が発生。



被災状況・応急復旧等（港湾）－八代港内港地区－

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

○八代港内港地区において、臨港道路の舗装段差、岸壁背後地の液状化、クラック等が発生。



被災状況・応急復旧等（港湾）－大築島土砂処分場－

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

○大築島土砂処分場において、鵜ノ子島の地山の一部が崩落し、これに伴い被覆ブロックの損傷が発生。
　また、整備中のC・D護岸において、大型土のうの滑動が発生。









被災状況・応急復旧等（港湾）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

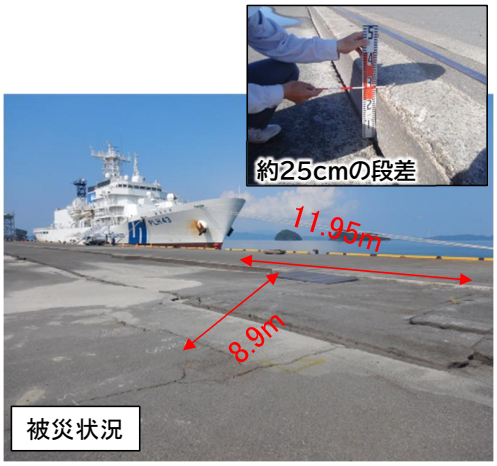
【九州港湾空港建設協会連合会 ⇒ 熊本県港湾建設協会】 ： 段差解消（噴砂撤去、段差擦り付け）



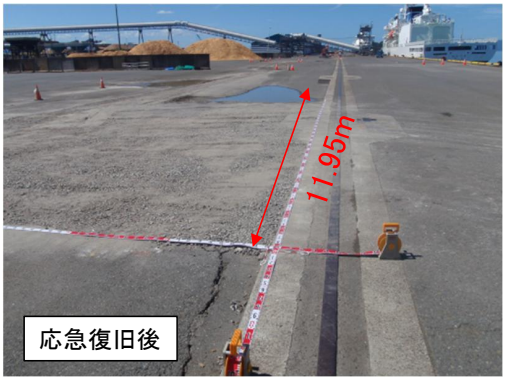




《噴砂撤去》







《段差擦り付け》

被災状況・応急復旧等（港湾）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

【（一社）日本埋立浚渫協会】 ： 応急復旧（陥没補修、ガントリークレーンレール基礎点検・応急復旧）









《陥没補修》







《ガントリークレーンレール応急復旧》

コンテナ貨物の取扱の再開（港湾）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

○10月18日の暫定供用を受け、10月26日に、震災後初めてとなるコンテナ貨物船として、井本商運㈱が運航し、八代港と神戸港を結ぶ内貿コンテナ船（国際フィーダー航路※）が寄港を再開した。

※内貿コンテナ船で地方港と国内主要港を結び、外貿コンテナ船の2次輸送を担う航路。

国土交通省 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism　Press Release

令和８年10月16日
九州地方整備局

八代港コンテナターミナルが10月18日に暫定供用します

令和８年熊本地震の影響により休止している八代港のコンテナターミナルについては、延長100mを先行させる段階的復旧により、10月中の暫定供用を目指していましたが、関係者の尽力により約２週間早い10月18日（日）にコンテナターミナルの暫定供用が可能となることとなりました。今後、震災前に就航していたコンテナ航路が寄港を再開すること等により、遠方の港湾を利用せざるを得なかった企業等が八代港を利用できるようになり、地域経済の活性化、効率的な企業活動につながることが期待されます。

残った個所の応急復旧を11月中に完了させるとともに、９月30日に策定された「八代港復旧設計方針」を踏まえ、一日も早い本格復旧の実現に向け取り組んでまいります。

荷役機械の試運転の様子（10月13日）



コンテナと同等の重量を持つおもりを吊り上げるガントリークレーン



応急復旧で設置したスロープを走行するストラドルキャリア

【問合せ先】
九州地方整備局 港湾空港部 計画企画官 井上
電話：092-418-3340（代表）、092-418-3358（直通）

※ 九州地方整備局港湾空港部では、令和8年熊本地震に係る港湾関係の対応状況等を公式Ｘにて随時発信しています。

八代港外港地区 コンテナターミナル 応急復旧実施状況（10月9日撮影）



■ 震災後、コンテナ船初入港（10月26日）





八代港における本格復旧に向けた工事第１弾（港湾）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

○八代港外港地区の本格復旧に向けた第１弾として、３岸壁について工事の入札手続きを開始した。

○今後、他の岸壁についても、順次入札手続きを行い、着実に復旧工事を進めていきます。

国土交通省 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism　Press Release

令和８年10月20日
国土交通省
九州地方整備局

八代港外港地区の復旧に向けた工事の入札手続きを開始
～八代港における本格復旧に向けた工事第１弾～

九州地方整備局では八代港外港地区について、本年１１月中の応急復旧とともに、９月３０日に公表した「八代港復旧設計方針」に基づき、港湾利用に配慮した概ね２年以内の復旧完了を目指しています。

今般、本格復旧に向けた第１弾として、以下の３岸壁について工事の入札手続きを開始しましたのでお知らせします。

今後、他の岸壁についても、順次入札手続きを行い、着実に復旧工事を進めてまいります。

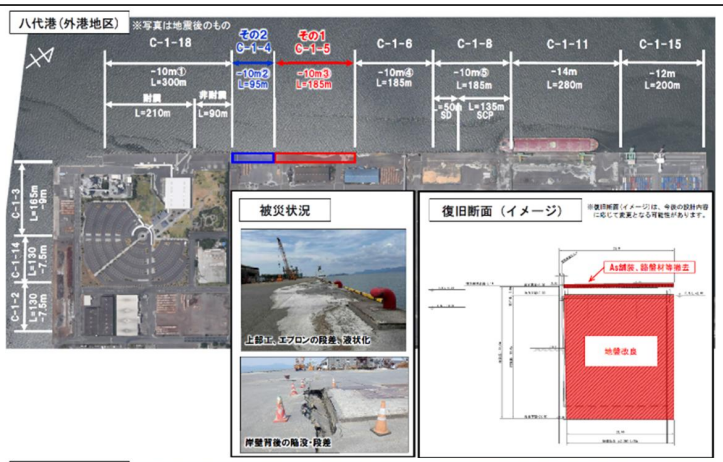
【復旧工事の内容】

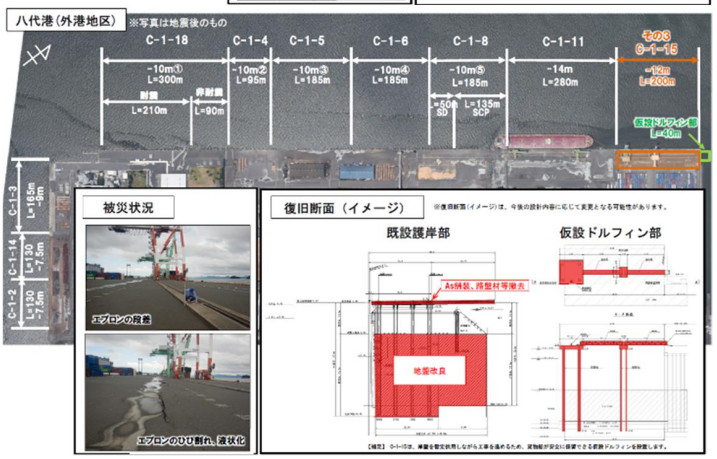
①令和８年度八代港災害復旧工事（その１）
工事発注規模 ： ２．９億円以上９．０億円未満
工　　期 ： 令和９年６月２５日まで
対象施設・工事内容 ：
岸壁(-10m) C-1-5 ：撤去工、仮設工、地盤改良工（別紙１参照）

②令和８年度八代港災害復旧工事（その２）
工事発注規模 ： ２．９億円以上９．０億円未満
工　　期 ： 令和９年６月２５日まで
対象施設・工事内容 ：
岸壁(-10m) C-1-4 ：撤去工、仮設工、地盤改良工（別紙１参照）

③令和８年度八代港災害復旧工事（その３）
工事発注規模 ： ２．９億円以上９．０億円未満
工　　期 ： 令和９年６月２５日まで
対象施設・工事内容 ：
岸壁(-12m) C-1-15 ：仮設ドルフィン設置、撤去工、仮設工、地盤改良工（別紙２参照）

<問い合わせ先>
国土交通省　九州地方整備局　港湾空港部　港湾事業企画課　井町
TEL：092-418-3360



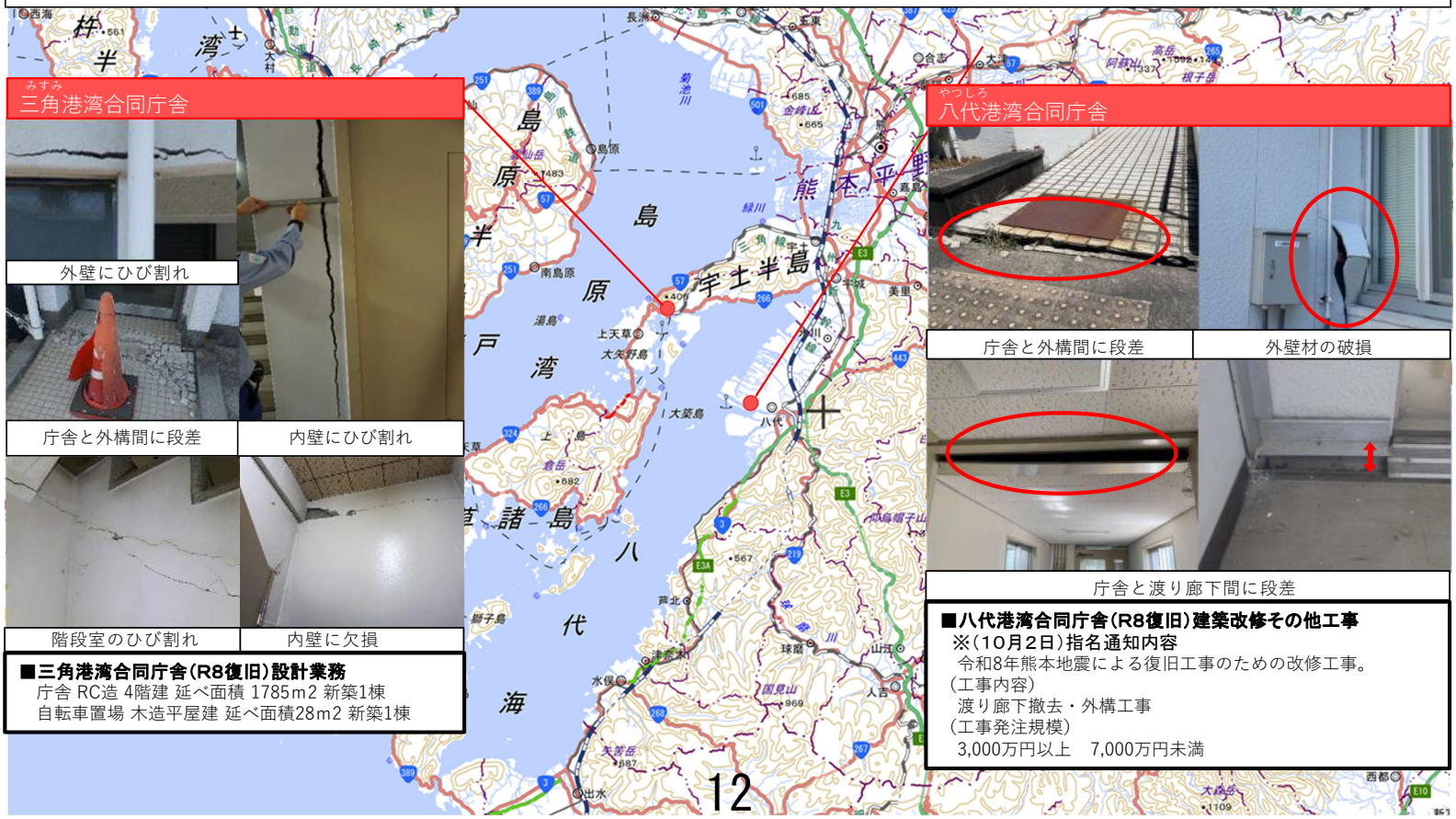


4. 官 庁 施 設

○.被災状況・災害復旧工事等（官庁営繕）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

○官庁施設の被災状況を調査するため、職員を派遣。被害のあった庁舎について、応急復旧方法の助言等、技術支援を実施。
○八代港湾合同庁舎の外構の陥没やひび割れ等の損傷箇所の災害復旧工事を行う予算を確保。【公告準備中】
○三角港湾合同庁舎の新築のための基本設計、実施設計及び既存庁舎の取壊し設計を行う予算を確保。【公告中】



■三角港湾合同庁舎（R8復旧）設計業務
庁舎 RC造 4階建 延べ面積 1785m2 新築1棟
自転車置場 木造平屋建 延べ面積28m2 新築1棟

■八代港湾合同庁舎（R8復旧）建築改修その他工事
※（10月2日）指名通知内容
令和8年熊本地震による復旧工事のための改修工事。
（工事内容）
渡り廊下撤去・外構工事
（工事発注規模）
3,000万円以上　7,000万円未満

5. 参考資料

- 令和8年熊本地震の概要
- 地震発生後の初動体制、緊急調査
  （TEC-FORCEによる被災状況調査・自治体支援、リエゾン派遣、防災ヘリによる調査等）
- 被災地・自治体支援
  （照明車・防災用コンテナ型トイレ派遣、給水車による給水支援等）
- 建設業界の活躍

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

1.令和８年熊本地震の概要

〇令和8年7月28日、16時27分頃、熊本県熊本地方でマグニチュード7.1（暫定値）の地震が発生。
熊本県宇城市及び氷川町で震度7を観測。

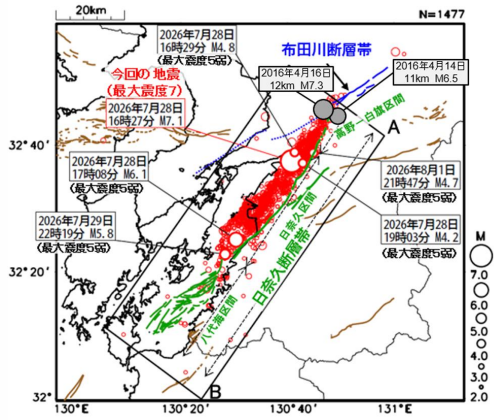
〇今回の地震発生以降、8月5日12時00分現在、この地震による地震活動域で、震度1以上を観測した地震が536回発生（震度7：1回、震度5弱：5回、震度4：19回、震度3：54回、震度2：140回、震度1：317回）

■震度分布図

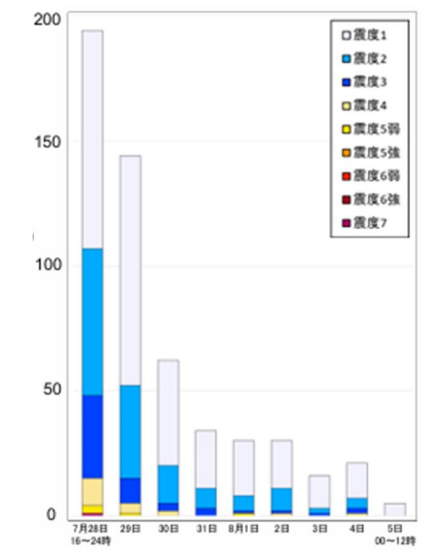


▲気象庁発表「地震の概要（ 8/2 13時時点）」より

■震央分布図



■震度1以上の地震回数グラフ
（8月5日 12時現在）



■震度1以上の地震回数
（8月5日 12時現在）

震度	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	合計
回数	317	140	54	19	5	0	0	0	1	536

※掲載している地震回数は速報値であり、後日の調査で変更になることがあります。



▲日本製紙煙突崩壊を防災ヘリ「はるかぜ」より撮影

▲気象庁HP（20260728161627_jishingaiyou.pdf）より

2.地震発生後の初動体制、緊急調査（TEC-FORCE、リエゾン派遣）

○7月28日16時27分頃に地震が発生後、同時刻に災害対策本部を立ち上げ、非常体制を発令。
○一刻も早い被災状況の把握と災害復旧対策の技術的支援を行うため、7月28日から熊本県庁、八代市、宇城市、宇土市、上天草市、天草市、氷川町、甲佐町などに「TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）」及び「リエゾン」を派遣。

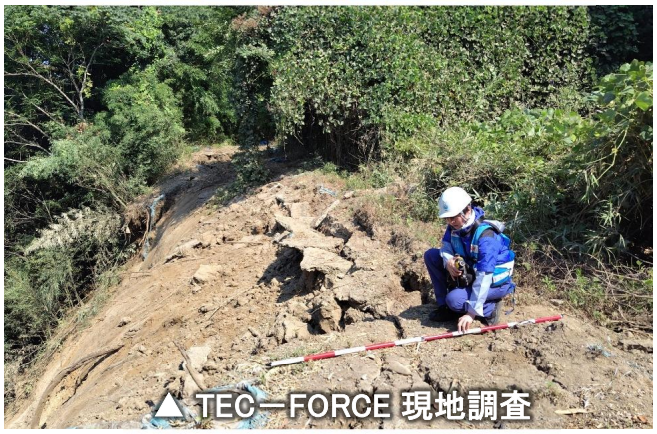


▲ 直ちに、災害対策本部立ち上げ 情報収集



▲ TEC－FORCE・リエゾンを派遣


▲ TEC－FORCE 現地調査


▲ TEC－FORCE 現地調査

2.地震発生後の初動体制、緊急調査（全国初TEC-FORCE予備隊派遣）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

○ 7月28日、熊本県宇城市、氷川町における震度7の地震発生により、熊本県で甚大な被害が発生。
○ 7月30日から全国初の「 TEC-FORCE予備隊」を、被災地に派遣し、被害を受けたインフラ等の調査を開始。

※「TEC－FORCE予備隊員」とは、災害対応に係る専門的な知識・経験を有する方が、災害時に非常勤職員の国家公務員として TEC－FORCEの一員となり被災地等で活動する仕組み。

X投稿


▲ 八代市役所で調査個所の打合せ



▲ 松本橋（氷川町）の被災状況調査


▲ 被災状況調査


▲現地で復旧に向けた技術的助言

2.地震発生後の初動体制、緊急調査（防災ヘリによる調査）

○ 7月28日から防災ヘリコプター「はるかぜ（九州地整）」「愛らんど（四国地整）」「きんき（近畿地整）」「おりづる（中国地整）」による道路、橋梁、堤防、港湾などの被災状況の上空調査を10回以上実施。被災した自治体にリアルタイムで情報を提供。



▲ 路面ずれ（九州自動車道八代IC付近）



▲ 球磨川堤防ひび割れ



▲ 橋桁ずれ（九州自動車道八代JCT付近）



▲ 被災状況を各自治体に迅速に提供

2.地震発生後の初動体制、緊急調査（ドローン調査）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

○8月4日、甲佐町の要請に基づき、土砂崩落箇所に九州地方整備局のドローン調査班、通称BlueHawksを派遣し、被災状況調査を実施。調査映像および点群データを用いた3Dデータを甲佐町に迅速に提供。



▲ドローンの飛行ルートを確認



▲ドローンを点検



▲ドローンの飛行状況



▲ 土砂崩落箇所の3次元点群データ

2.地震発生後の初動体制、緊急調査（全国各地から支援）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

○ 全国各地の整備局からTEC-FORCEが集結。全国一丸となり、調査や支援に協力。



△九州派遣に向けた出発式



△ 全国のTEC-FORCE隊による給水支援活動



△複数地整を集めての調整会議



△ 他地整から派遣の防災ヘリコプター

2.地震発生後の初動体制、緊急調査（TEC-FORCE活動状況）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

○全国から国土交通省TEC－FORCEが集結し、被災状況調査や、給水・トイレ及び電源支援等の災害対策機械による応急対策の技術支援を実施。
○令和8年9月24日時点で、6市4町を中心に他のべ約5，900人・日で活動を展開（リエゾン等含む）

被災状況調査

▼ヘリによる上空からの被災状況調査及び映像の提供



▼橋梁の被災状況調査



▼デジタル機器を用いた被災状況調査



▼岸壁背後の被災状況調査



▼ドローンによる被災状況調査



▼TEC-FORCE出発式（8/18）



▼調査報告書の手交、説明（8/20）





【熊本県】
・現地災害対策本部（連絡調整等）　・被災地上空調査
・機械操作、映像撮影、情報通信　・JETT等の派遣　等

【熊本市】
・被災状況調査（熊本城公園）
・給水支援

【宇土市】
・被災状況調査（河川）
・給水支援

【嘉島町】
・照明車支援
・給水支援

【宇城市】
・被災状況調査（河川・道路）
・給水支援
・船舶による支援物資輸送及び給水・入浴・洗濯支援（三角港）

【甲佐町】
・被災状況調査（道路、のり面）
・応急対策班

【美里町】
・電源支援
・被災状況調査（道路）

【氷川町】
・被災状況調査（河川）
・給水支援、電源支援

【八代市】
・被災状況調査（港湾・河川・道路）
・給水支援
・船舶による支援物資輸送及び給水・入浴・洗濯支援（八代港）

【天草市】
・被災状況調査（港湾）

【上天草市】
・被災状況調査（港湾）

被災者支援

▼照明車による人命救助活動の支援



▼断水発生による給水支援



▼防災用コンテナ型トイレの派遣



▼ボランティアセンターへ対策本部車を提供



▼電力復旧までの電源支援





令和8年9月24日現在 のべ約5,900人・日

2.地震発生後の初動体制、緊急調査（TEC-FORCEによる報告）

○ 地震発生から1週間、八代市・宇城市・宇土市・上天草市・天草市・氷川町・甲佐町へ河川や道路、港湾の被災状況調査の結果を報告。


▲各自治体との情報共有会議（氷川町）


▲レーザースキャナ測量データ活用（宇城市）


▲被災状況の調査結果を説明（八代市）



▲調査結果報告書の手交（5市、2町）

3.被災地・自治体支援（照明車・給水車・対策本部車派遣）

○ 全国各地から、災害対策車（照明車、給水車、対策本部車等）延べ52台が稼働。（九州地整28台、他地整24台 令和8年8月19日現在）
○ 7月30日、懸命な救助活動が続く「イオンモール熊本」へ、九州地方整備局の照明車を5台派遣し、夜間救助活動を支援。



▲ イオンモール熊本の夜間救助活動を支援


▲ 全国から照明車派遣



▲ 全国から給水車派遣



▲ 対策本部車の配備状況
（熊本県 県南広域本部/八代河川国道事務所）

3.被災地・自治体支援（給水支援、入浴支援）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

○日本水道協会、自衛隊等による給水活動と調整、避難所・医療機関、福祉施設などの重要施設の給水ニーズを把握。最大で214台※の給水車をはじめ、水資源機構による可搬式浄水設備の設置等による応急給水の量や頻度を向上。（※9月24日時点では11台）
○九州地方整備局の船舶「海輝（かいき）」「海煌（かいこう）」による給水支援のほか、北陸地方整備局「白山」、中部地方整備局「清龍丸」による給水支援、入浴支援等を実施。

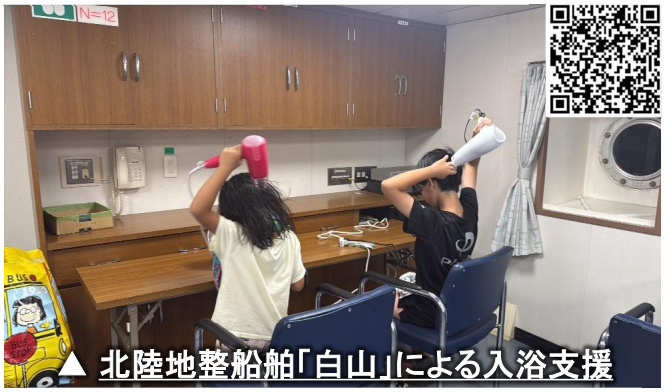


▲被災地各所における給水支援



▲氷川町設置の可搬式浄水設備


▲海洋環境整備船「海輝（かいき）」「海煌（かいこう）」によるドライブスルー方式での給水支援


▲北陸地整船舶「白山」による入浴支援

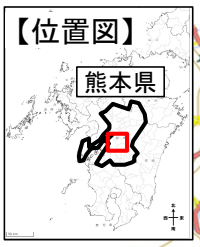
3.被災地・自治体支援（防災用コンテナ型トイレ派遣）

九州地方整備局 Kyushu Regional Development Bureau

9/25（金）時点

○被災地支援として、上下水道等、公共インフラの機能が停止した地域のトイレ環境改善のため、7月31日から国が所有する「防災用コンテナ型トイレ」15基（近畿：6、四国：4、中国：1、九州：4）を被災地へ派遣

【位置図】



派遣先（8基）：内1基配置換え

【道の駅】		【派遣市・町】
①道の駅「ゆふいん」：九州地整	⇒	美里町（美里町カントリーパーク）
②道の駅「あぐり窪川」：四国地整	⇒	氷川町（竜北グランド）
③道の駅「掛合の里」：中国地整	⇒	氷川町（竜北グランド）
④道の駅「都城NiQLL」：九州地整	⇒	氷川町（氷川町伝承館）
	⇒	【配置換え】氷川町竜北中学校
⑤道の駅「うきは」：九州地整	⇒	八代市（八代市鏡支所）
⑥道の駅「シーサイド高浜」：近畿地整	⇒	氷川町（道の駅「竜北」）
⑦道の駅「みやま」：福岡県	⇒	氷川町（屋内ゲートボール駐車場）
⑧道の駅「たるみずはまびら」：九州地整	⇒	宇城市（小川総合文化センター）

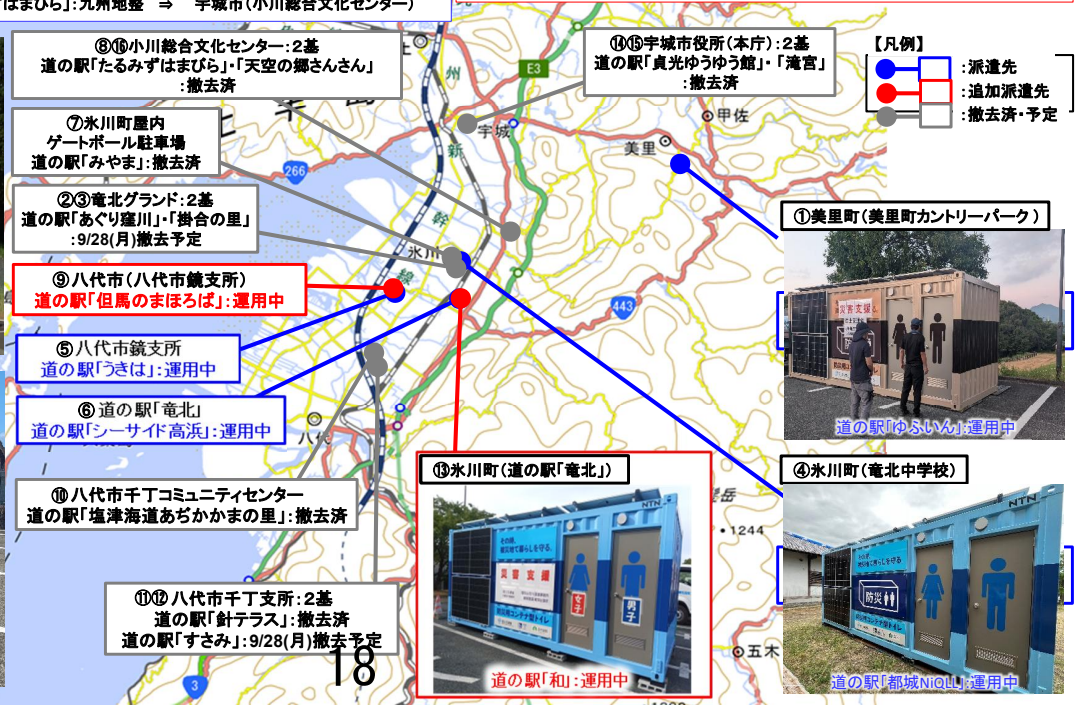
追加派遣先（8基）

【道の駅】		【派遣市・町】
⑨道の駅「但馬のまほろば」：近畿地整	⇒	八代市（八代市 鏡支所）
⑩道の駅「塩津海道あぢかまの里」：近畿地整	⇒	八代市（八代市千丁コミュニティセンター）
⑪道の駅「針テラス」：近畿地整	⇒	八代市（八代市 千丁支所）
⑫道の駅「すさみ」：近畿地整	⇒	八代市（八代市 千丁支所）
⑬道の駅「和」：近畿地整	⇒	氷川町（道の駅「竜北」）
⑭道の駅「貞光ゆうゆう館」：四国地整	⇒	宇城市（宇城市役所（本庁））
⑮道の駅「滝宮」：四国地整	⇒	宇城市（宇城市役所（本庁））
⑯道の駅「天空の郷さんさん」：四国地整	⇒	宇城市（小川町総合文化センター）



▲「道の駅うきは（福岡）」のコンテナトイレ支援


▲八代市鏡支所の配備・活用状況



3.被災地・自治体支援（スターリンク、DX機材派遣）

○回線業者の通信基地局が停電や被災したことにより広範囲に通信障害が発生。宇城市、美里町にスターリンクを設置し、 通信状況の改善支援を実施。
○360度カメラ、レーザースキャナ測量等のDX機材を用いて早く、広く、分かりやすく被災状況を報告。




▲ 美里町役場におけるスターリンク設置状況



▲ 宇城市に360度カメラで撮った画像で被災状況を報告



▲ レーザースキャナ測量データに基づく調査報告

3.被災地・自治体支援（人材・技術的支援）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

○今回被災を受けた自治体では、技術職員が少ない自治体もあり、災害査定への対応は大きな負担となっている。
○このため、一般社団法人九州地域づくり協会では、公益事業の一環として、国土交通省OBの豊富な経験と技術力を活かし、被災自治体への支援を実施。



▲ 自治体支援状況

4.建設業界の活躍（飲料水やブルーシート等の支援）

○7月31日から、自治体からの支援要請に対し、「九州地方整備局」と「日本建設業連合会九州支部」との災害協定に基づき、支援物資（飲料水約8,500本、ブルーシートや土のう等）の運搬・搬入などを実施。さらに「日本埋立浚渫協会九州支部」と「熊本県港湾建設協会」が災害協定に基づき、飲料水や食料等の支援物資を避難所等へ運搬・搬入などを実施。
○急務となった被災家屋へのブルーシート張り作業は、「熊本県建設業協会」が熊本県の要請により実施。



▲宇土アリーナへ飲料水約8,500本を支援


▲ 被災家屋のためのブルーシート支援



▲ 自治体に向け、土のうを支援


▲名古屋港からの支援物資を八代港へ荷下する状況
八代市総合体育館に搬入。

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

4.建設業界の活躍（ブルーシートの設置）

○被災家屋の二次被害防止にむけ、熊本県建設業協会、熊本県鳶土工業連合会、熊本県造園建設業協会、日本建設業連合会九州支部等の連携によるブルーシート展張作業を実施。


ブルーシート設置準備


ブルーシート設置作業


ブルーシート設置作業

4.建設業界の活躍（井戸の洗浄）

○熊本県は地下水が豊富であり、水道を利用していない地域においては、個人井戸等により水を利用。
○今回被害が大きかった八代市では、金剛地区等を中心に、被害戸数は約4,500戸（八代市調べ）。
○このため、8月15日より被害状況や住民意向等のアンケート調査を実施し、希望者に対し井戸洗浄等を行う工事業者を速やかに派遣。（県内業者は15社程度であることから、（一社）全国さく井協会等と連携し全国から広域的に業者を確保）
○回答のあった希望者に対し、順次洗浄等を行うとともに、洗浄等により水が出なければ井戸の修繕等を実施。

<八代市での井戸の被害状況>
八代市が市内の井戸の被害状況を調査

井戸を利用していると想定される戸数	うち被害が生じていると想定される戸数
約 15,000戸	約 4,500戸

※その他周辺の断水被害が大きい市町（宇城市、氷川町等）へも被害状況やアンケート対応のニーズを確認中



濁り水が発生した個人宅の井戸（八代市金剛地区）



▲井戸洗浄後

▲井戸洗浄の様子

4.建設業界の活躍（24時間体制による復旧作業）

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

○地域の建設業者は、被災地域の一刻も早い復旧のため、現場気温38度を超える過酷な現場環境の中で復旧作業に全力対応。



▲日奈久ICの路面の舗装補修



▲24時間体制による球磨川の緊急復旧工事



▲協力会社の皆様と作業内容等の確認



▲こまめな水分・塩分補給など体調管理に留意







農林水産省 九州農政局

MAFF
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

令和８年 熊本地震に関する農林水産省の活動
～発災から１か月間のあゆみ～





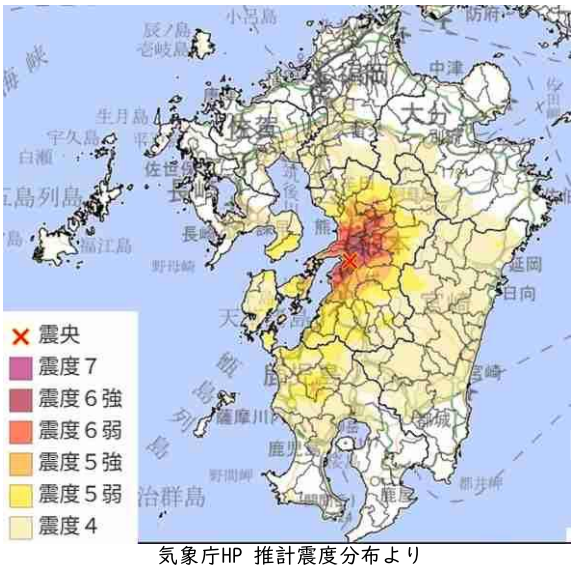






Ⅰ　令和８年熊本地震の概要

○ 令和８年７月28日 16時27分頃、熊本県熊本地方でM7.1（震源深さ16km）の地震が発生。
○ 熊本県宇城市・氷川町において震度７を観測し、震度１以上の地震を計727回記録（8月29日9時時点）。
○ 熊本県における農地海岸堤防や農業用水路、ため池等で被害が発生し、農地・農業用施設等において15,029箇所の被害を確認。被害額は約960億円の見込み（8月31日14時時点）。



気象庁HP 推計震度分布より

農地・農業用施設等の被害

R8.8.31時点

	被害箇所数	被害金額（千円）	地域
田・畑	5,035	6,117,468	八代、上益城、宇城、熊本、菊池、天草、阿蘇、玉名、芦北
農業用施設	9,159	67,695,549	八代、上益城、宇城、熊本、菊池、天草、阿蘇、玉名、芦北、球磨
海岸保全施設	835	22,200,000	八代、宇城、熊本
農地・農業用施設等 被害額　計		96,013,017	

熊本県HP（https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/318139.pdf）より引用



ボックスカルバートの破断



コンクリート舗装の割れ



ため池堤体の応急処置（シート張り）





水路への建物の倒壊



ため池堤体のクラック



堤防波返しの傾き

2　地震発生後の初動体制、被災調査（MAFF-SATによる被害状況調査、リエゾン派遣、トリアージ）

○ MAFF-SATとは、農地・農業用施設及び農村生活環境施設が被災した際、迅速な被害把握や応急復旧を支援するため、被災自治体に派遣される農林水産省職員のチーム。

支援の内容

派遣された職員は、①初期情報収集、②緊急概査、③技術支援を行います。
また、必要に応じ試験研究機関等への専門家の派遣要請を行い、合同で調査及び支援を実施します。

災害発生

都道府県・市町村等からの要請により派遣を行うほか、
災害の規模（甚大性、広域性）等によりプッシュ型で派遣を行います。

①初期情報収集　今後の支援の必要性を判断するため、被災の範囲・規模、応急対策の必要性、被災自治体の要望等に関する基本情報の把握を行います。

②緊急概査　農地・農業用施設及び農村生活環境施設の被災状況（箇所、面積）の把握や被害額の算出等に関する支援を行います。

③技術支援　被災した農地・農業用施設及び農村生活環境施設の応急対策の実施や災害復旧計画の工法の検討等に関する技術的な支援を行います。

本格復旧着手


①初期情報収集


②緊急概査


③技術支援

①初期情報収集



②緊急概査（堤防変状調査）



③技術支援（応急ポンプの設置）



2　地震発生後の初動体制、被災調査（MAFF-SATによる被害状況調査、リエゾン派遣、トリアージ）

○ 九州農政局農村振興部では、７月28日の震災発生後、同日中に災害対策本部を設置し対応を開始。
併せて県庁にリエゾンを派遣。
○ 令和８年熊本地震（７月29日）以降、被害の有無や課題、要望等を確認するため、大きな揺れ（震度５弱以上）を観測した市町村をMAFF-SATが訪問。
○ ７月30日からは他の地方農政局からの応援職員とともにMAFF-SATが被害調査を実施。

（時系列）
７月28日　16:27ごろ　地震発生
16:30　災害対策本部設置、局長指示
県へリエゾン派遣
７月29日　市町村の被害状況等の確認開始
７月30日　他農政局から派遣されたMAFF-SAT職員が到着し、派遣職員も含めた被災調査の開始









MAFF-SAT市町村訪問

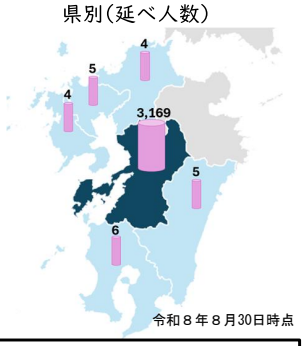


MAFF-SAT派遣者数
農政局別（延べ人数）

本省	180
東北	64
関東	59
北陸	295
東海	286
近畿	456
中国四国	465
九州	1,388

令和８年８月30日時点

MAFF-SAT派遣者数
県別（延べ人数）



令和８年８月30日時点

令和８年熊本地震における取組目標

１　**国民・施設の安全を確保する**
地震による被災を受けた農業用施設等の点検・調査を実施し、地域の住民の人命・財産の安全確保と情報提供に努める。

２　**営農再開につなげる**
被災農業者の早期営農再開を支援する。

3　被害状況

○　国営かんがい排水事業八代平野地区は、幹線水路の延長34.1kmのうち、全面復旧が必要な範囲3.16km、目地補修が必要な58箇所を確認。
○　県営かんがい排水事業氷川下流地区は、幹線水路（延長13.6km）の右岸側最上流部が破断し、右岸側約890haが断水。その他の幹線、支線も多数の損壊を確認。

【国営かんがい排水事業八代平野地区】

○ 被害状況





○ 被害状況調査





【県営かんがい排水事業氷川下流地区】

○ 被害状況





○ 被害状況調査





3　被害状況

● 防災重点農業用ため池

○ 令和８年熊本地震を受け、発災直後からMAFF-SATを派遣し、熊本県職員と協力して被害状況調査を実施。
○ 防災重点農業用ため池は、九州管内674箇所（うち熊本県446箇所）で点検を行い、熊本県内の56箇所で異常を確認。

○ 被害状況







○ 被害状況調査







3　被害状況

● 直轄海岸保全施設整備事業　八代地区

○ 令和８年熊本地震により昭和工区においては、堤防のクラック、樋門部波返工の傾き、空洞化が発生。
　郡築工区においては、堤防道路に亀裂や沈下、堤防のクラック、潮遊池護岸の法肩が損傷。
○ MAFF-SATの一員として地質の専門家である地質官を派遣し、被害状況の把握及び復旧工事の検討を実施。

○ 被害状況


昭和工区


郡築工区



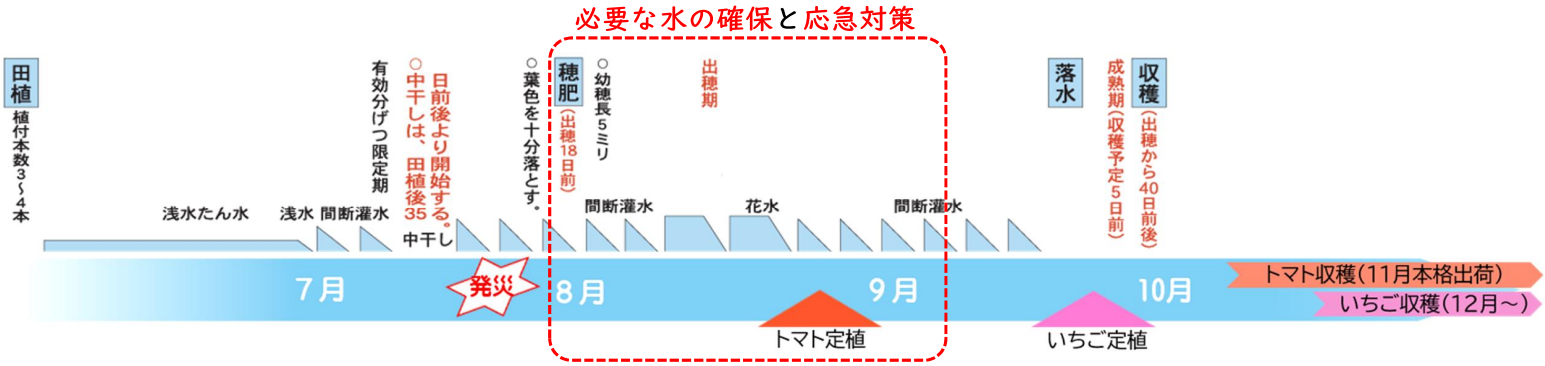
○ 被害状況調査





4　応急復旧等

○発災後、地域の農業インフラが壊滅的な被害を受け、農作物の生育に欠かせない用水確保が困難な状況。
○このため、九州農政局は、農業被害の状況把握や用水確保など応急対策の緊急対応を実施。
○MAFF-SATは、被災農業者が継続して営農ができるように、用水確保など応急対策に全力で挑む。




MAFF-SATによる用水供給可能範囲把握


MAFF-SATによる空気弁の点検・確認


用水路への農業用水ポンプアップ


ほ場への用水供給再開

4　応急復旧等

【７月２８日時点】
（発災直後）

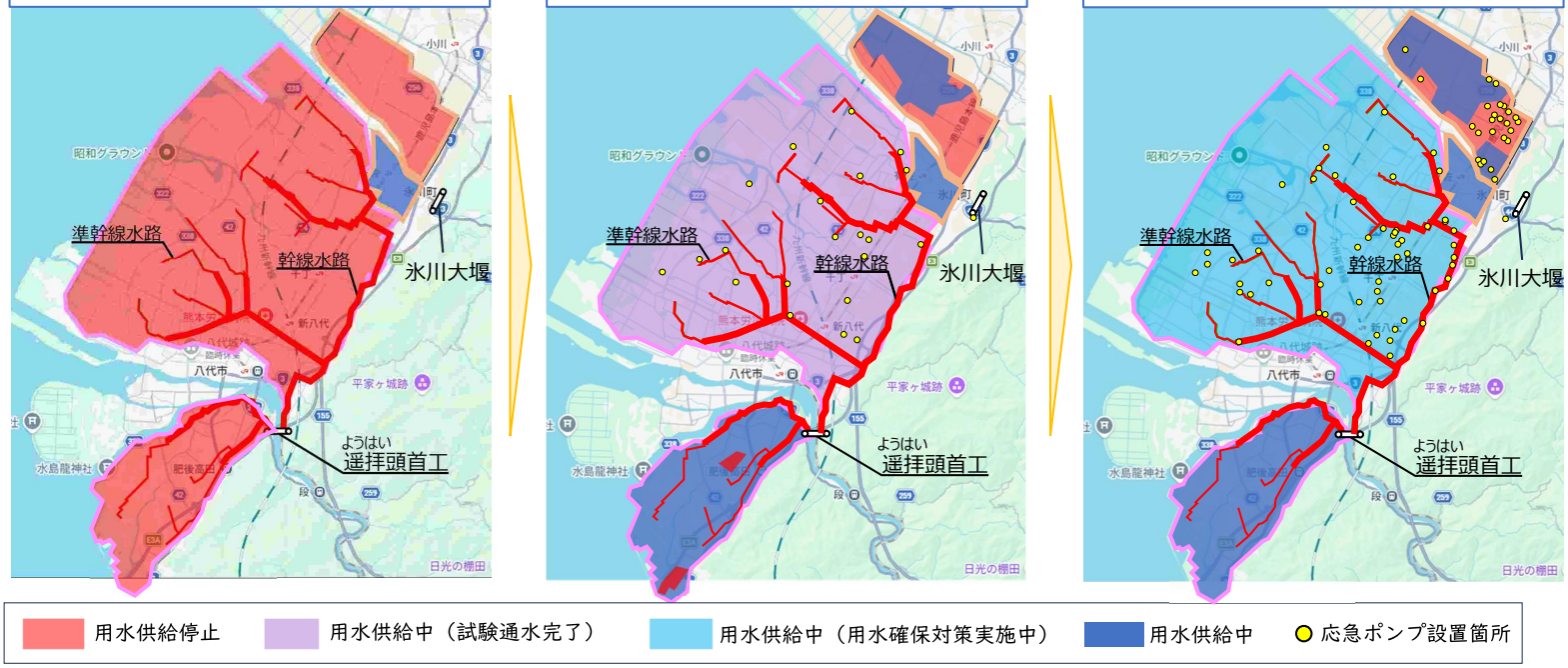
- 広範囲において幹線水路等が損傷。
- 頭首工施設の損傷が無いことを確認し、球磨川からの取水及び幹線水路への通水停止。
- 損傷箇所の確認に着手。
- 暫定的な用水手当のためのポンプ（８月２日から稼働）及び給水車（８月３日から稼働）確保に着手。

【８月８日時点】
（順次、用水供給開始）

・[北岸地域]
幹線水路等の応急復旧工事を行い、通水可能であることを確認のうえ、農地への配水を順次開始（通水量の減を踏まえ、区域を分けたローテーション配水を実施）。
・[南岸地域]
末端水路の損傷による一部の用水供給停止地域の応急復旧工事に着手（８月12日から用水供給再開済み）

【８月２７日時点】
（現在）

- ローテーション配水等の緩和に向け、通水量の増量のため、沈下した幹線水路の水路壁嵩上げ、排水路や沢水から幹線水路への注水等を実施。
- 用水の農地への配水状況を情報収集し、配水支障箇所に応急ポンプ等による対応を順次実施。



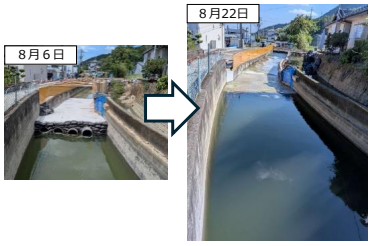
4　応急復旧等

【国営かんがい排水事業八代平野地区】
○　被災した幹線水路等の応急復旧工事を実施し、８月８日から農地約4,400haへの送水を再開。
○　給水車による用水供給について、JA及び土地改良区を通じて地域に周知し、トマト、イチゴ等の園芸作物農家に対し希望農家への配水を実施。
○　用水路の応急復旧までの間、80台以上のポンプ及びポンプ車４台を配備し、用水路への補給を実施。
○　追加対策工事により送水量を増強し、８月23日までに末端水路最下流部への配水を確認。さらに、８月29日及び30日に沈下した水路壁の嵩上げや漏水箇所の補修を行い、通水を再開。

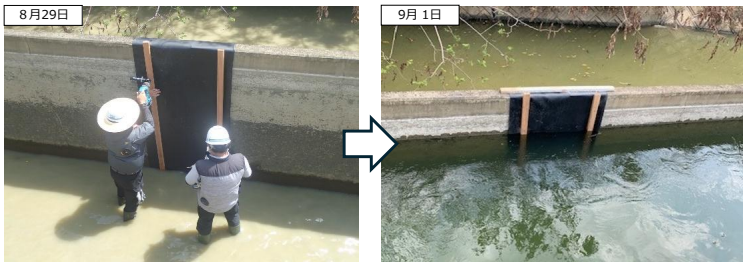
用水路への水の補給



追加工事により送水量を増量



漏水箇所の補修



給水車による配水



ポンプによる農業用水の供給



水路壁の嵩上げ



4　応急復旧等

【県営かんがい排水事業氷川下流地区】
○　氷川大堰直下の幹線水路の被災後、国・県が用意した約100台のポンプを投入。また、イチゴ農家等のために大堰の取水口にポンプを２台設置。８月７日から断水した農地への段階的な配水を開始。
○　農研機構（農村工学研究部門）とMAFF-SATが、幹線水路の応急復旧と暫定通水を支援。
○　８月22日から充水試験を実施し、25日には上流域の約190haの大半の農地において、幹線水路からの用水供給が可能となったことを農家へ周知。９月１日までに、幹線水路約13.6kmの充水が完了。

幹線水路の
被災状況



幹線水路の
仮復旧状況



幹線水路の
管内面補修状況



（内面バンド：一部、水資源機構より提供）

応急的な取水のため用水路の充水





給水車用の
応急取水ポンプ設置



幹線水路の落水を取水



ハウス横のタンクへ給水

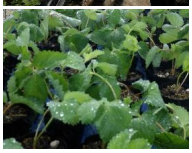


ハウスでの水利用









4　応急復旧等

○ 令和８年熊本地震による点検対象の防災重点農業用ため池は674箇所（うち熊本県は446箇所、被災箇所は56箇所（うち決壊０箇所））。
○ 県又は市町村が行う応急対応に関し、現地へMAFF-SATを派遣し、技術的助言、被害箇所へのブルーシートの設置、水位計の設置などを支援。
８月20日までに、応急対応が必要な箇所について全て対応済。
○ 応急対策として、ポンプを用いて河川から揚水し、農業用水を確保。
○ 海岸保全施設の堤防道路の亀裂や沈下、堤防のクラック、樋門部波返工の傾きなどの応急復旧を実施。

【ため池】


堤体上部の亀裂


ブルーシート設置

○ 応急的な農業用水確保







【海岸保全施設】


海岸堤防の亀裂


ブルーシート設置


波返し工下部の空洞


グラウト注入による応急復旧

5　地元農家が営農継続（1/2）

○　MAFF-SATの活動により、用水路の通水等による応急的な農業用水が確保され、農地に水が届くことで今期の営農が継続された。

応急用水供給・用水路の通水



5　地元農家が営農継続（2/2）

○　今後は、応急対策から本格的な復旧・復興のステージへ移行。
○　今期の営農用水確保を優先しつつ、本格復旧に向けて引き続き支援を行う。

農業用水の確保により今期の営農を継続



（参考）　SNSによる情報発信の取り組み

○　農林水産省では、SNSを活用し、MAFF-SAT（農林水産省サポート・アドバイス・チーム）の取組を発信。
○　九州農政局のXアカウントでは、フォロワー数276人ながら、高い注目を浴びた。

農林水産省X

農林水産省 maff　| Facebook



九州農政局X

農林水産省 九州農政局（@MAFF_KYUSHU） / X



広報の重要性



九州農政局のXアカウントでは、
フォロワー数276人ながら、１つの投稿が
14万回表示され、高い注目を浴びた。

● 公共土木施設等の被害について

【公共土木施設等被害状況】　被害件数2,191箇所、被害額約1,567億円（8/27時点）

○平成２８年熊本地震との８月２７日時点の被害報告による比較では、港湾、河川、下水道の被害が増加している。
これは、震源地の違いによる地形的要因と推察される。

施設別	令和８年熊本地震（８月27日時点）						(参考)平成２８年熊本地震	
	県工事		市町村工事（熊本市含む）		合計		県・市町村工事（熊本市含む）合計	
	箇所数	金額(億円)	箇所数	金額(億円)	箇所数	金額(億円)	箇所数	金額(億円)
河川	234	482.3	54	10.0	288	492.3	734	287.9
海岸（港湾）	20	16.2	16	9.5	36	25.7	5	2.6
海岸（その他）	28	51.0	－	－	28	51.0	1	0.1
砂防設備	30	4.3	－	－	30	4.3	97	41.1
急傾斜地	8	2.5	－	－	8	2.5	5	0.9
道路	119	32.1	635	102.9	754	135.1	2,359	440.6
橋梁	52	114.6	85	49.1	137	163.6	156	340.5
港湾	101	（※１）237.3	24	18.1	125	255.4	16	10.0
水道	－	－	325	24.5	325	24.5	－（※2）	－（※2）
下水道	7	12.1	411	354.8	418	366.9	121	135.2
公園	4	15.2	38	30.3	42	45.5	62	194.8
合計	603	967.6	1,588	599.3	**2,191**	**1566.8**	3,556	1,453.7

※１　港湾は八代港被災施設復旧技術検討会による復旧工法検討中のため、県工事の金額は今後変更の可能性がある。
※２　水道は令和６年に公共土木施設災害復旧事業に追加されたため、平成２８年熊本地震には計上されていない。

● 農林水産関係施設の被害について

【農林水産部】
R8.9.17（木）12：00時点

被害状況

■令和8年熊本地震による農林水産業関連の被害額は、約1,610億円

※9/17時点の速報値であり、今後も増加する見込み

（１）農畜産業
　○農作物等（梨等）・・・・・・・・・・　3.8億円
　○農業施設（機械、共同利用施設等）・・　545.8億円
（２）農地等
　○田・畑、農業用施設、海岸保全施設・・　960.1億円
（３）林業
　○林地・林産施設等・・・・・・・・・・　29.8億円
（４）水産業
　○海岸・漁港等・・・・・・・・・・・・　70.4億円

【参考】過去の大規模災害時の農林水産関係被害額
平成２８年熊本地震：約1,826億円
令和２年７月豪雨　：約1,019億円
令和７年８月豪雨　：約　861億円

１．農畜産業の被害

	概要	被害面積等	被害金額（千円）	地域
水稲	枯死（うるち）	0.1ha	267	上益城
果樹	落果（梨、ブドウ、晩白柚）	91.5ha	368,181	八代、宇城、菊池、熊本
野菜	枯死（きゅうり）	0.3ha	1,746	宇城
工芸作物	乾燥不良（葉タバコ）	0.3t	611	宇城
花き	鉢の損傷（シクラメン）	5,200鉢	1,981	上益城、阿蘇
畜産	家畜の死亡（採卵鶏、馬、ブロイラー、豚）	5,378羽・頭	10,412	宇城、天草、菊池
	廃棄（生乳）	1.7t	209	菊池
農作物等被害額　計			383,407	
農業機械・施設	農業用機械（トラクター、田植え機、コンバイン、い草専用機械、米乾燥機、暖房機等）の故障、農舎、畜舎、農業用ハウスの倒壊・損壊	約2,500件	18,200,206	八代、宇城、上益城、熊本、芦北、天草、阿蘇、菊池
共同利用施設等	工場施設、選果場、ｶﾝﾄﾘｰｴﾚﾍﾞｰﾀｰ、集荷場等の損壊、施設設備の故障・破損	**69件**	**36,381,601**	熊本、宇城、芦北、八代、上益城、玉名、菊池、天草、阿蘇
農業施設被害額　計			**54,581,807**	

・調査が完了したものから被害額等を計上している。
・右側地域欄は、現在調査中の地域も含めて記載している。

２．農地・農業用施設等の被害

	被害状況	被害箇所数	被害金額（千円）	地域
田・畑	法面崩れ等	5,035	6,117,468	八代、上益城、宇城、熊本、菊池、天草、阿蘇、玉名、芦北
農業用施設	水路、排水機場、ため池、道路、頭首工の損傷等	9,159	67,695,549	八代、宇城、上益城、熊本、菊池、天草、阿蘇、玉名、芦北、球磨
海岸保全施設	堤防の亀裂や沈下等	835	22,200,000	八代、宇城、熊本
農地・農業用施設等被害額　計			96,013,017	

３．林業の被害

	被害状況	被害箇所数	被害金額（千円）	地域
林道	法面崩壊、落石	105	214,750	上益城、天草、八代
林地等	山腹崩壊、落石等	7	438,500	球磨、上益城、天草、宇城、阿蘇
林産施設	林産物加工施設、苗木生産施設等の損傷	32	2,329,278	八代、宇城、上益城、熊本、芦北、玉名、天草
林業被害額　計			2,982,528	

４．水産業の被害

	被害状況	被害箇所数	被害金額（千円）	地域
海岸・漁港	浮桟橋の損傷、防波堤の損傷等	32	6,666,300	宇城、芦北、天草、八代、熊本
共同利用施設等	荷さばき施設の損壊、漁協事務所の損壊等	32	236,346	八代、芦北、宇城、天草、熊本、玉名
水産物・養殖施設	ニジマス等のへい死、養殖場の破損等	56	141,970	八代、熊本、宇城
水産業被害額　計			7,044,616	

小川嘉島線の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





八代鏡宇土線（上段）、下郷北新田線（下段）の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





大野川の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





道路啓開（R443、鏡宮原線）【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





横江大橋の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





新萩原橋の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





井上跨線橋の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）



植柳橋下流側道の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）



金剛橋の応急復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





鏡川への倒壊家屋①の撤去【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





鏡川への倒壊家屋②の撤去【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





大鞘川の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





迫谷川（砂防施設）の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





第二迫谷川（砂防施設）の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





氷川の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





流藻川の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）



AFTER（復旧後）



八間川の復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）



AFTER（復旧後）



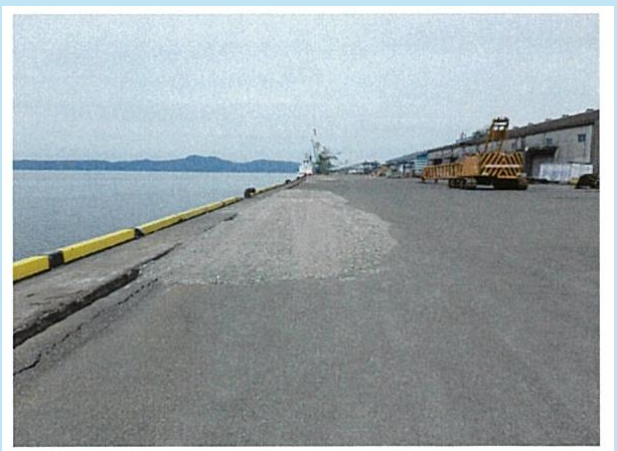
八代港 港湾施設の応急復旧状況【熊本県】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





市道　宇土（うと）・三日（さんち）線の復旧状況【宇土市】









大島町5号線の復旧状況【八代市】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





道路陥没（下水道）の復旧状況【八代市】

BEFORE（被災時）





AFTER（復旧後）





道路・橋梁の被害状況【美里町】

（町道第二岩野線）





（岩野橋）



